

平成30年度 秋田産業サポータークラブ

新エネルギー地産地消WG 発足報告

2019. 3. 14

WG主査 副主査
加賀谷 健治 辻 純一

1/15

2019. 02. 23

1. Vision (秋田の未来像)

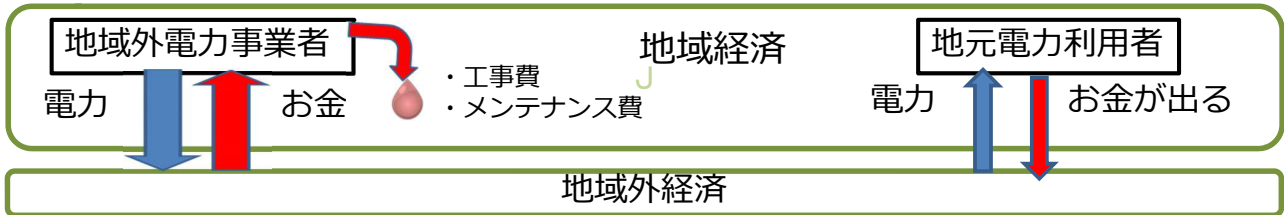
地場産業のグローバル化で地域の繁栄復活

(秋田ルネッサンス)

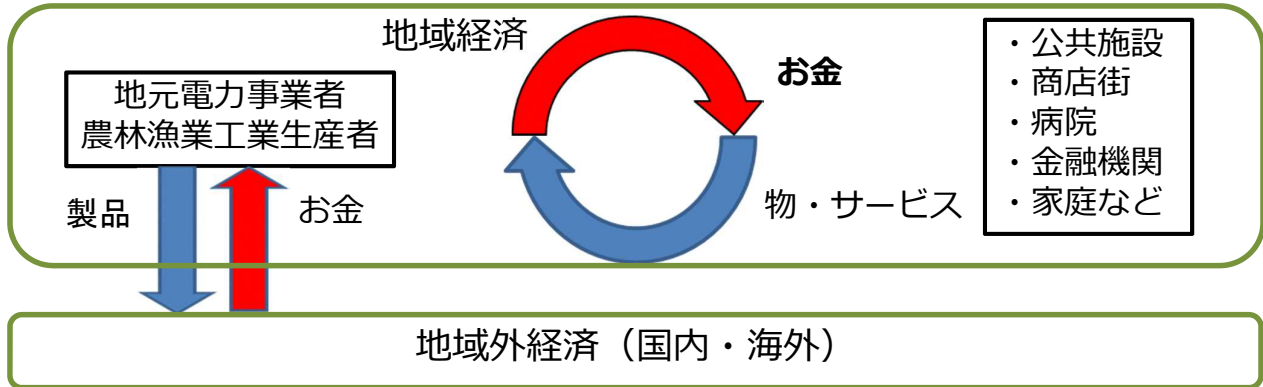
2. Mission (WGの使命)

新エネルギーの地産地消で地域経済を活性化させる

1) 一般的な電力取引



2) 電力を地産地消する場合



3/15

3) 電力地産地消による効果

(1) 地元にお金循環し経済が活性化する。

(2) 電力料金が安価になる。

電力料金	発電料	
	託送料(30~40%)	送配電事業者に支払う
	営業費	

- ・電力の託送料が不要。
- ・遠隔地送配電ロス約5%が、地元では少ない。

(3) 将来、温室効果ガス「排出権」売却でさらに安価にできる。

- ・現在未成熟だが、今後期待できる。

(4) SDGs実践で資金調達が有利になる。

※SDGs (エス・ディー・ジーズ) : 国連が採択したSustainable Development Goals (持続可能な開発目標)

・国連が金融産業に「責任投資原則 (PRI: Principles for Responsible Investment)」を提唱し「環境(Environment)」「社会(Social)」「統治(Governance)」の3分野に配慮した責任ある投資を求めた。

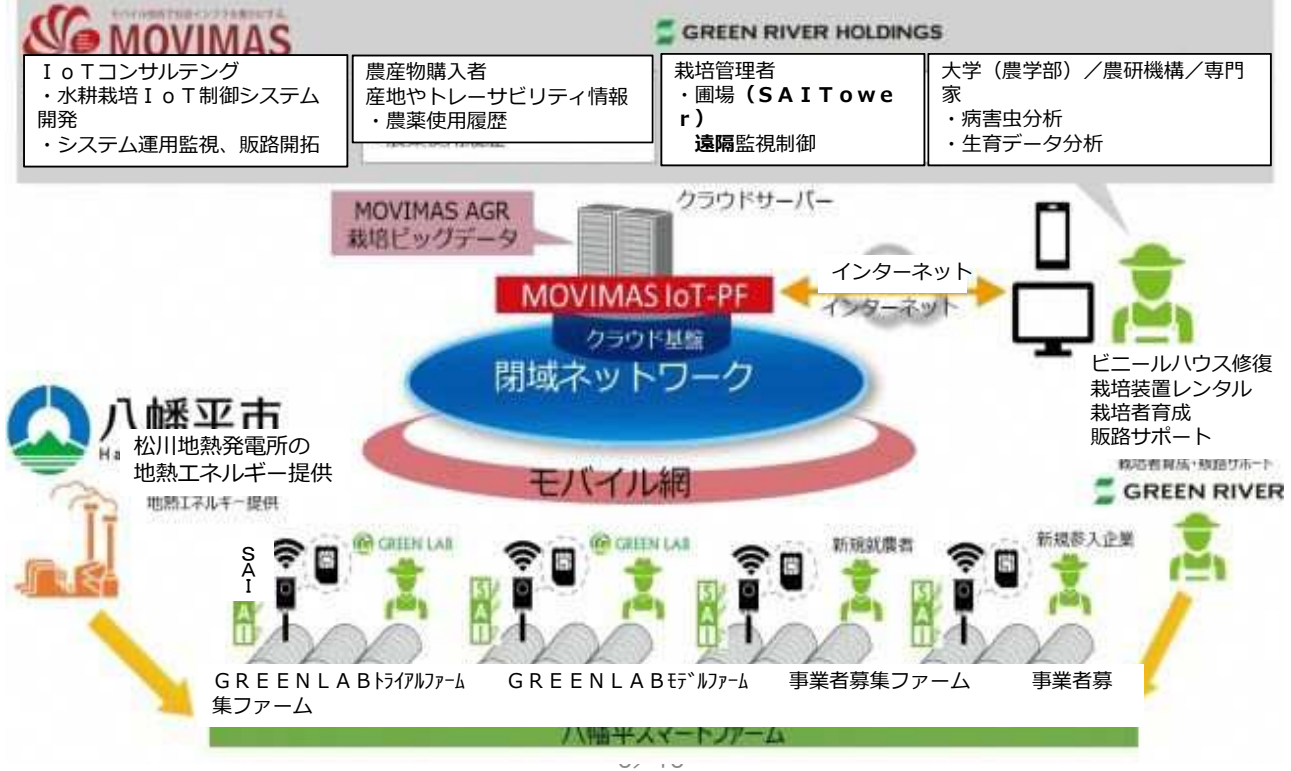
・年金積立金管理運用独立法人 (GPIF) が運用マネーをSGDsに配慮した企業に振り向ける姿勢。

4/15

4) 新エネルギー地産地消 事例

①地熱・熱水 (八幡平スマートファームプロジェクト)

MOVIMASと八幡平市はグリーンバーホールディングスと提携し耕作放棄された熱水ハウスをIoT次世代施設園芸へ転換拡大



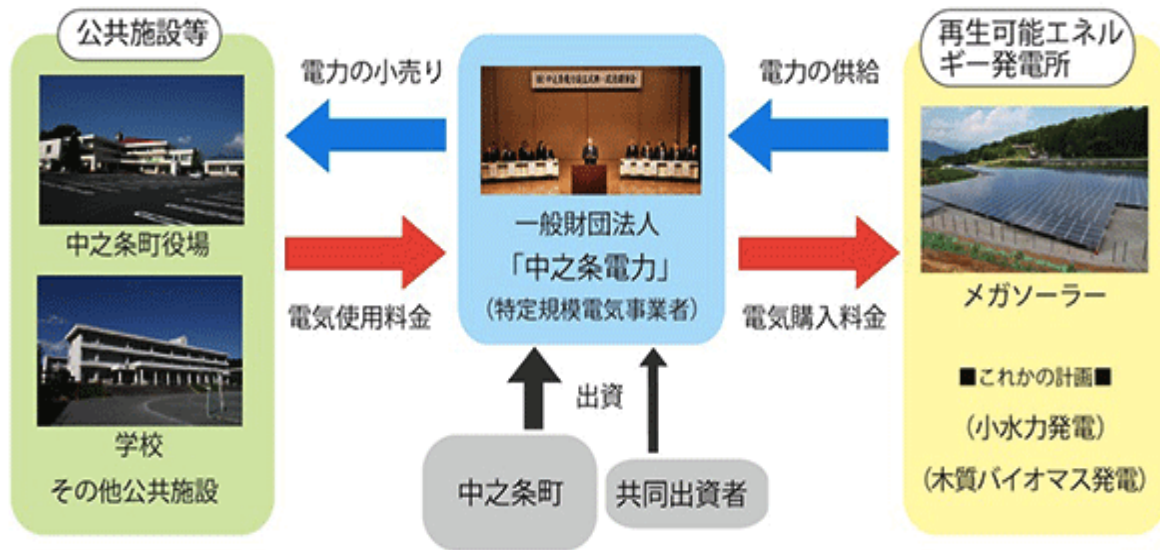
②小水力発電 (でんき宇奈月プロジェクト)



運営委員会	代表理事	建設業協会	事務局
	富山国際大学	宇奈月温泉自治振興会	
	黒部商工会議所	再生可能エネルギーコンサル民間会社	
	(社) 黒部・宇奈月温泉観光局	宇奈月温泉旅館協同組合	
	黒部市 (商工観光課)	富山県小水力利用推進協議会	
	富山県立大学	富山高等専門学校	

富山県黒部市宇奈月温泉
小水力発電 1基 2.2KW
・低速電気自動車、バス (バッテリーカー)
・公民館ピロティ照明
・防災無線用電源

③太陽光発電 (中之条電力)

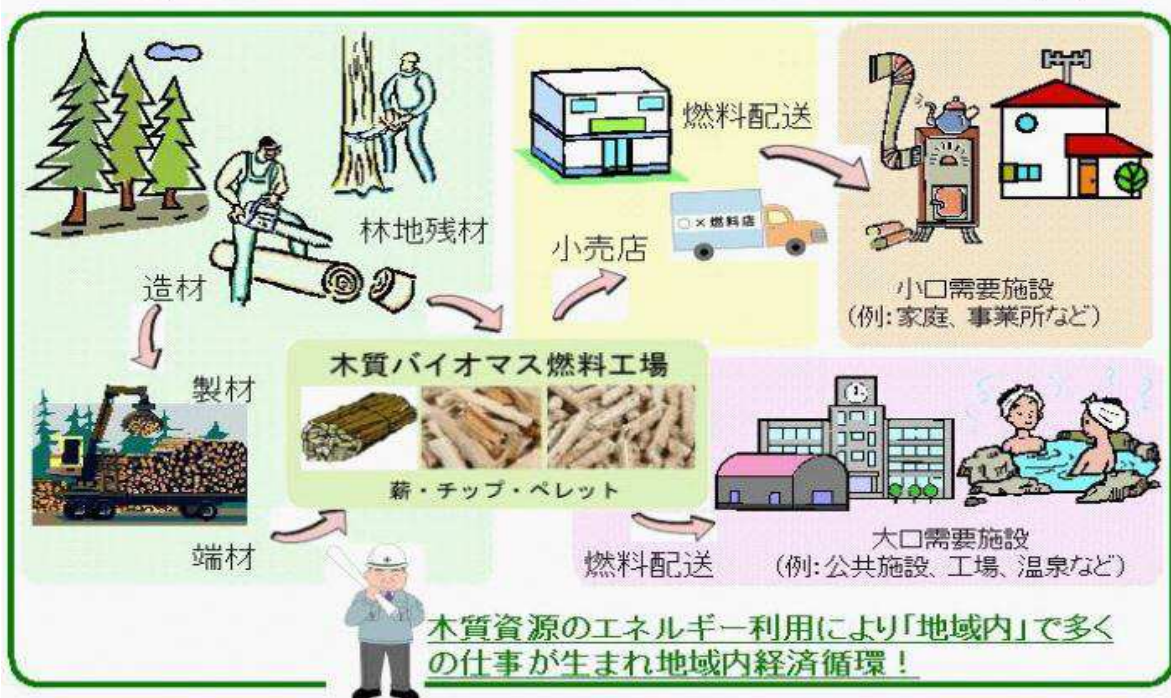


- ・群馬県中之条町の「中之条電力」は全国初の自治体主導の特定規模電気事業者。
- ・3ヶ所のメガソーラーからの電力供給によって、町内の公共施設の電力需要を補う。
- ・今後、小水力発電、バイオマス発電を追加予定。

7/15

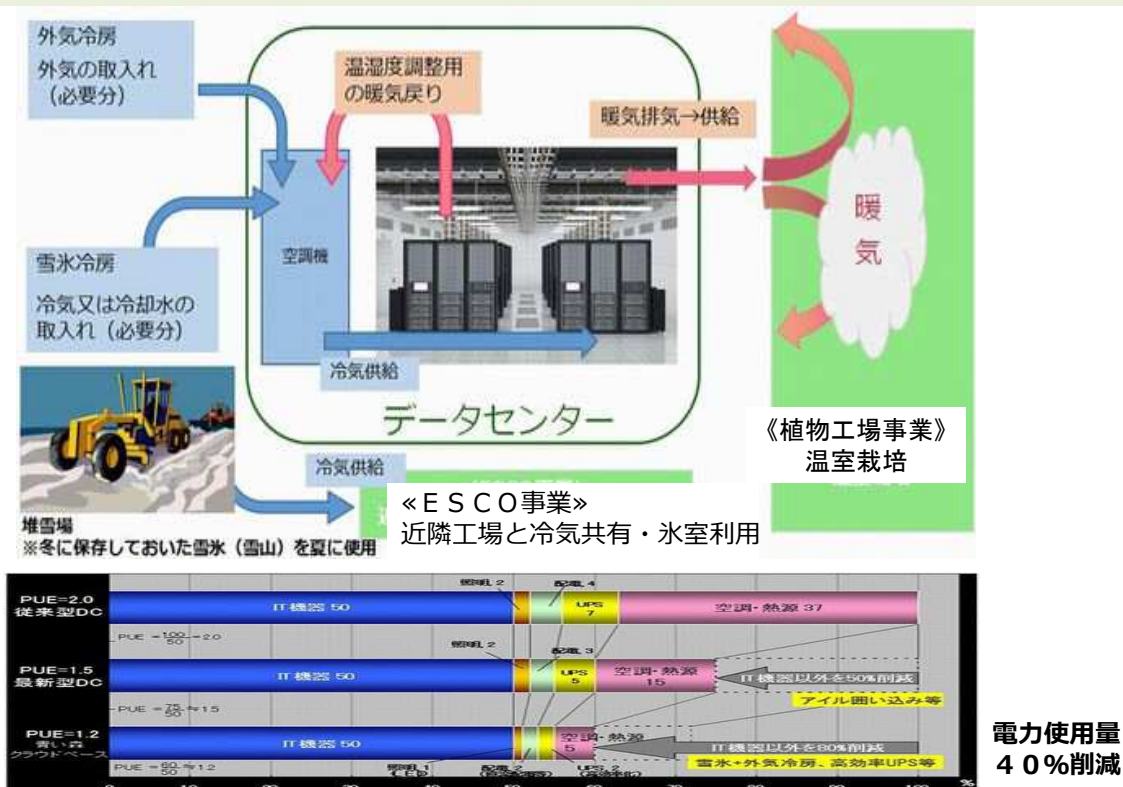
④森林バイオマス (北海道下川町)

木質資源など地域の資源を利用する事業による効果



8/15

⑤積雪・外気（新潟データセンター）



9/15

3. Strategy (戦略)

Step. 1) 「地産地消可能な新エネルギー」の調査・検討
(WGメンバーの「新エネルギー担当」が実行する)

(1) 調査対象新エネルギー

地熱、水力、太陽光、風力、バイオ・マス、積雪（夏季冷房用）

(2) 地産地消方法の調査・検討

- ① 設備等の技術面
電力： 発電設備、安定供給設備、送配電設備
熱水・冷水： 熱発生源設備、安定供給設備、給水設備
- ② 制度面： 送配電等

(3) 「地産地消可能な新エネルギー」の秋田県内分布

(調査項目をWGで協議する。)

Step. 2) 「地場産業」の選定と競争力向上提案

(WGメンバーの「地場産業担当」が実行する)

地区分担はWGで協議するが、仮に次の地区に設定。

- ①湯沢・雄勝②横手③由利・本荘④大仙・仙北⑤秋田⑥能代・三種
- ⑦大館・鹿角北秋田

(1) 地場産業選定

- ① 類似模倣による価格競争を避けるため、オンリーワン産業を強化する。
- ② 地元特産物、農作物、魚介類、伝統工芸品、特殊技術などで、県外・海外製品と「機能・品質・技術」等で差別化できている物産。

(2) 競争力向上の提案

- ① エネルギーを通年供給する環境で「生産性と品質を向上」させる提案。
- ② 農漁業6次化環境で生産する新製品の提案

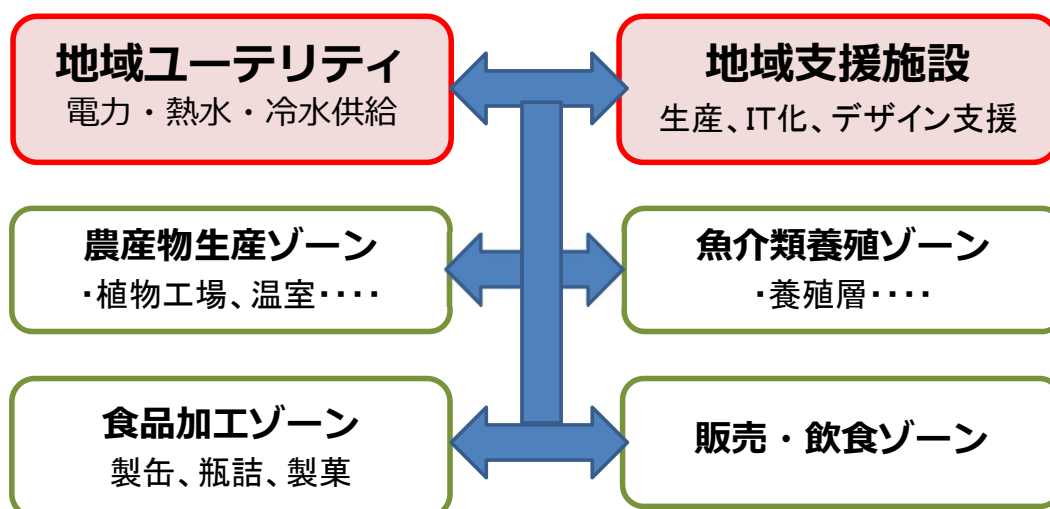
(3) JAPANブランド認証取得するための提案

11/15

Step. 3) 事業展開モデル提案

地区ごとの新エネルギーと地場産業をマッチングさせる。

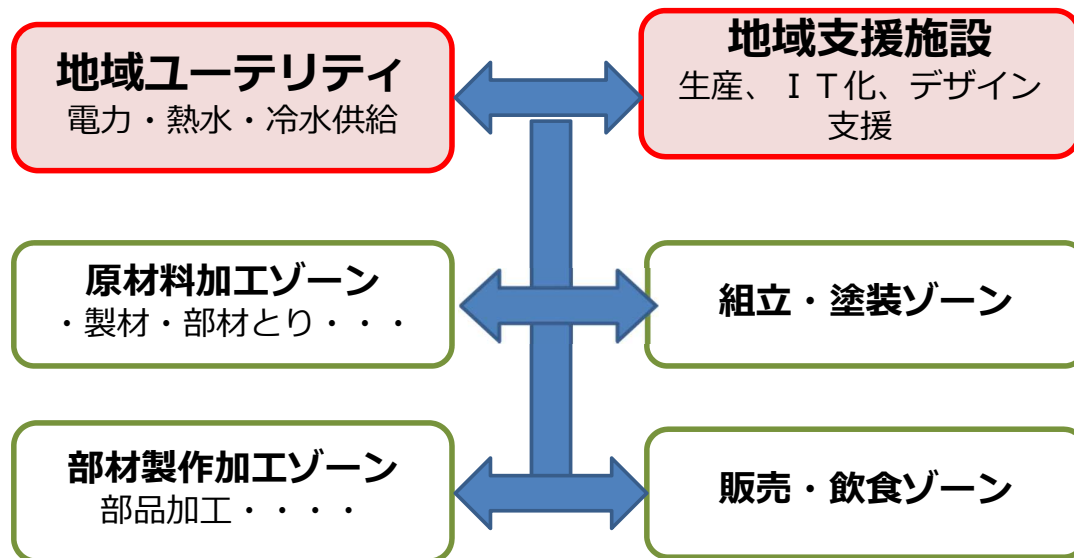
(1) 例1. 「食品コンビナート」



- ・「地域ユーティリティ」「地域支援施設」で大企業並みの組織体を形成。
- ・効率的な「農業・漁業の6次化環境」を実現。

12/15

(2) 例2. 「伝統工芸品コンビナート」



- ・ 「地域ユーティリティ」「地域支援施設」で大企業並みの組織体を形成。
- ・ 新用途・新デザインなどの近代化を提案。

13/15

(3) 関連施設を集約する (コンビナート化)

- ① エネルギー搬送ロスを最少化
- ② 地域内企業間物流の効率化 (流れ作業を実現)
- ③ 異なる能力を持つ様々な人が、知恵を出しあい「夢と技術とデザイン」で新しい価値を持つ製品を開発する環境を作る。

(4) 地域共用施設を設置する

- ① 地域ユーティリティ (電力・熱水・冷水供給)
 - ・ 進出企業がエネルギーの設備投資不要で、生産業務に専念できる。
 - ・ 地域管理機能を持たせ「安心・安全」を確保する。
- ② 地域支援施設
 - ・ 生産研究者、製造技術者、IT技術者、デザイナーなどにより、施設内の生産性向上、品質向上、新製品開発を支援する。
 - ・ 伝統工芸の場合は、新用途・新デザインなど近代化を支援する。

4. Objective (WGの目標)

1) 実行メンバー

1) 「新エネルギー」担当

WGメンバー：

2) 「地場産業」担当

WGメンバー：

3) 「事業展開モデル」担当

①湯沢・雄勝
②横手
③由利・本荘

④大仙・仙北
⑤秋田
⑥能代・三種

⑦大館・鹿角北秋田

2) スケジュール

	2019年度	2020年度	2021年度
WG役割確認	協議・修正△		
Step. 1 実行	新エネルギー地産地消△		
Step. 2 実行		地場産業競争力強化 △	
Step. 3 実行			事業展開モデル提案 △